

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズクラブ

2022~2023年度 No.279

3 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ IV



強調月間：CS

Green Project
ワイズメネット

今月の聖句

アベルはヨアブに呼びかけて言った。「いつまでも剣の餌食とし合うのか。悲惨な結果になることを知らぬわけではあるまい。サムエル記下2：26

3月第1例会（講演会）

日時：3月18日（土）午後3時～4時30分

場所：日本基督教団西那須野教会1階ホール

内容：「もしもの時」に備えて話し合ひましょう

司会：田村 修也副会長

那須ワイズメンズクラブ 主催

講演会

「もしもの時」に備え話し合ひましょう～

みんなで語り合ひましょう。

2023年3月18日（土）

午後3時～午後4時30分

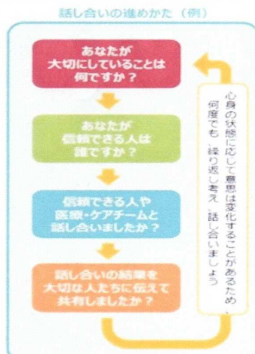
講師：河野順子ワイズメンズクラブ会長・(社) 栃木県訪問看護ステーション協議会 会長

人生の終わりまで、あなたは、どのように過ごしたいですか？

もしもの時のために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。
命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。
自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合ひ、共有することが重要です。



【入場料】無料

会場/日本基督教団西那須野教会 (那須塩原市太夫塚1-232-438)

【主催】那須ワイズメンズクラブ・那須YMCA

お問い合わせ 那須ワイズメンズクラブ 副会長 田村修也 090-5545-6763

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウロセン (デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) チェン・チ・ミン(台湾)

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事：(RD) 佐藤 重良 (甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

北東部長：大久保 知宏 (宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

2月例会データー（出席率：85.7%）

在籍者 7名

出席者 5名 メイキャップ 1名

メネット 2名 ゲスト 1名 ユースリーダー 5名

2月 Happy Birthday

3/13 田村 修也メン

4月第2例会（役員会）

日時：3月24日（金）午後4時30分から

場所：田村副会長宅・ZOOM

4月第1例会（那須聖園老人ホーム訪問）

日時：4月28日（金）午前中

場所：那須町寺子丙1498-2

ワイズメンズクラブ設立100周年記念祝賀会

日時：3月10日～12日

場所：台湾

巻 頭 言

田村 修也

2月18日に久しぶりに末の娘が帰ってきた。妻と次女が妻の末の弟夫妻に誘われて、京都への旅行に行くのに合わせて帰って来てくれたのである。2月21日に妻たちが帰宅するので、その日に富士見市の自宅へ帰って行った。帰宅する最後の晩に、近くに住んでいる幼稚園時代からの親友と夕飯を共にして旧交を温めたのである。そして、その親友を伴って夜遅く帰って来た。私も加わっていろいろと話をしていくうちに、末娘が小学校時代にYMCA塩谷キャンプ場で開催された夏のキャンプにその友人もさそって一緒に参加した話になった。その友人は、「あの時は誘われてどうしようかと迷っただけけれども、強く誘われたので思い切って行くことにした。あの時は行って本当によかった。楽しかった。大学生のお兄ちゃんたちがとても親切にしてくれたことは今でも覚えている。」と話してくれた。我が家の3人娘もYMCAのサマープログラムに幾度となく参加して、その度に竹の節のように大きな成長の糧になって来た。忘れ難い財産として今も心に残っている。那須YMCAの設立の動機の一つには、那須町からある少年が宇都宮YMCAのプログラムに一人で参加したことがあった。県北にYMCAが設立されればどれだけ多くの青少年たちが、新しい出会いを通して豊かな成長の糧に与かっていくことが出来るか、そのためにも、どうしても県北にYMCAが必要であるとの熱い思いがあった。宇都宮と那須の間の距離は約50kmで、自動車でもほぼ1時間で来られる距離にあるが、那須YMCAの設立までには20年の歳月が必要であった。娘たちの話を聞きながら、改めて子ども達の心に刻まれたボランティアリーダーの存在の大きさを知らされた。YMCAの活動はボランティアリーダーの働きによって青少年の心に刻み込まれてゆく。ウィズの信条の第2は「青少年のためにYMCAにつくそう」である。これからもなお一層、YMCAとボランティアリーダーの活動を支援して行きたい。



2023. 2.18 リーダー報告会 於：日本基督教団西那須野教会

2月第1例会(リーダー報告)報告

日時：2月18日(土)午後4時30分～

場所：日本基督教団西那須野教会

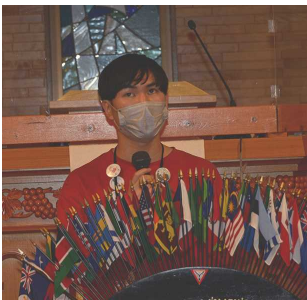
出席者：河野、田村、村田、藤生、平山の各メンバー、田村、村田メネット、ゲスト：原田、潘牧師、リーダー5名 計14名

「リーダー報告会」をテーマに、那須YMCAユースボランティアリーダー5名をゲストに迎え、リーダー2名が参加した「ユースボランティアリーダーズフォーラム」(以下YVLF)と「全国YMCAリーダー研修会」(以下全L研)の報告会を行いました。



初めに「せっぷう、こと佐藤彩華リーダーより、YVLFへの参加報告が行われました。YVLFはワイズが主催する「経験の浅いリーダーのための

交流会」であり、2022年度は9～10月の2泊3日(会場：東京YMCA山中湖センター)にて行われました。『自分の分身を知る』をテーマに話し合いがなされ、「リーダーとして成長するために「自分を知る、ことが必要」「そのために「様々な場面での自分、を挙げてみる」「すると自分の知らなかった(意識していなかった)「自分を知る、ことができた」「(リーダーの枠を超えて)人として成長できた」など、せっぷうリーダーは自身の内面からのレベルアップを図れた様でした。



次に「こーちゃん、こと渡辺航平リーダーより、全L研への参加報告が行われました。全L研はYMCAが主催する「経験豊かなリーダーのための研修会」であり、2022年度は6月に1泊2日

(会場：熊本YMCA阿蘇キャンプ)、9月に2泊3日(会場：熊本YMCA阿蘇キャンプ)、11月にオンライン(ZOOM使用)にて行われました。こーちゃんリーダーにとってはちょっとレベルが高かったようですが、その分刺激的な研修となったようでした。6月は「YMCAをより深く考え」そして「11月まで続く研修会をどう有意義なものとするか」を話し合う研修とし、9月は「私たちが目指していく社会」について深く話し合う研修とし、11月はこの2回の研修を受けて「YMCA毎の発表」(とちぎYMCAは「子供達の自主性を大切に」したプログ

ラムを行っていく、と発表)を行ったとのことでした。この研修から「自分の考え思いを言語化することがいかに大切か」「他YMCAの経験豊かなリーダーから多くの刺激を受けた」など、こーちゃんリーダー自身も心身ともにレベルアップが図れた様でした。



報告の後、今春卒業するリーダーへの記念品贈呈とリーダー育成資金贈呈を行いました。

ユースボランティアリーダーの成長に喜びを感じ、今後も少しでも力になればと、思いを馳せる時間となりました。

3月(第2例会(役員会)報告)

日時：2月24日(金)午後4時30分から

場所：田村副会長宅

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事、

1. 3月公開講演会について

内容は、「CS 公開講演会(ACPについて)講話河野順子会長」とする。3月18日(土)午後3時から4時30分とする。場所は、日本基督教団西那須野教会1階ホール。チラシ、ポスターの作成を行い、多くの方を招く。リーダーの参加も期待。メンバーは、2時15分集合し、会場づくりを行う。

2. 4月例会について

3. 御園那須老人ホームへの訪問とし、4月28日(金)に訪問する。内容について、先方との調整を行い、4月役員会で決定する。

4. 4月役員会(第2例会)について

3月24日(金)午後4時30分から、田村副会長宅で行う。次年度計画について相談を行う。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(第118回)

田村修也

こうして、飲用水路の完成は、更に希望を膨らませ、当初の開拓事業の目的である那須野が原の水田化に必要な用水路建設への要望へと高まり、国営事業での実施に向けて、明治16年(1883)11月7日から、印南さんと矢板さんは上京して政府への陳情活動を再び開始しました。明治16年から18年にかけて6回、滞在日数12日から87日、延べ252日もの陳情活動でした。印南さんと矢板さんは、政府の認可が何時まで待っても下りないため

に、もうこれ以上待つことは出来ない状況に立たされたために、全財産を投じて、那珂川から水を引き込む水門とトンネルの工事を始めました。しかし、準備した資金も底をつき、もうこれ以上、銀行からも借入出来なくなって途方に暮れた時、長年にわたる努力が報われて、明治18年(1885)4月14日付けで、国費10万円で国の直轄事業で、18年から実施する決定を獲得することができました。この決定の知らせを聞いた時のことを、印南さんご自身の履歴書の中で、「明治11年2月にもくろみ、8ヶ年の苦心をもって、今、大水路の開鑿の事、お聞き届け相成り、実に天にも昇る心地せり。」と書き記しています。

準備万端整いましたので、この政府の決定に基好づき、翌年の4月15日に、今立って(ここにあるこの烏ヶ森の頂上で起工式を行い、この年の9月15日に那須疏水本幹工事が完成し、三島農場内(昨日事前研修で行った那須野が原ミュージアムのある所)で盛大に通水式が行われました。この通水式で、印南さん矢板さんに対して、10年間にわたる功労が表彰されました。

更に、明治19年夏までに支線工事も国の直轄事業で完成し、その後の維持管理は地元受益者に引き継がれ、那須水組が19年(1886)11月に設立され、12月16日付けで水路が引き渡され、今日ある水と緑豊かな那須野が原の基礎が築かれたのでした。印南文作さんは、この那須疏水の完成を待つ様にして、明治21年(1888)1月7日に病に倒れ、12日には生前の希望により、二つ室の常盤が丘に葬られました。まさに、那須野が原開拓のために捧げられた生涯でした。享年57歳でした。

素掘りの水路の管理には大変な経費と技術と労力が必要でした。そのため、開拓者たちは役員を中心に一つとなって維持管理に勤めました。このことを通して、住民自治の体質が培われていきました。

これが、那須野が原の第1の国家的なプロジェクトです。第2の国家的なプロジェクトは昭和41年(1966)から平成7年までの28年間の歳月と、480億円の巨費を投じて実施された国営那須野が原総合農地開発事業です。この事業で、那須野が原開拓事業は完成し、その上、深山ダム、沼ッ原上池とそれによる揚水発電所、戸田調整池、赤田調整池(ここに、那須土地改良区事務所が設置されセンターになっている)の完成により、将来の水の需要に対して万全の備えが出来上がりました。

旧西那須野町は栃木県内の旧47市町村と全く異なった特質があります。それは旧47市町村には、

自然の川があり、その水によって命を与えられた森や林という自然があり、その自然が作り出す「生きた土」があり、その肥沃な土を頼りに、森や林を伐り拓いて人が住みついて、集落が出来、その集落が集まって村となり町になっていったという共通の歴史を持っています。

宮沢賢治の童話に「狼の森、笈のもり、盗森」という作品があります。この冒頭の部分に、日本の、いや、世界に共通する人間の集落が出来てゆく初めの姿が描かれています。森や林の近くで、きれいな水の流れる川、肥えた土、陽当りの良い所を見つけて、木を伐り開墾し、作物を栽培して定住していったのです。(以下次号へ続く)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

「苦痛や病気、喪失に立ち向かうからこそ、
あなたは成長するのです。

苦難は決して罰ではなく、

あなたへの贈り物なのです。」

(エリザベス・キュープラ・ロス)

コロナ禍が3年も続き、ウクライナでの戦争も1年になろうとしています。そのなかで、私達の心身の大変さも続いています。

このような先が見えないVUCAの時代をより良く生きるために必要な非認知能力の一つ「折れない心」を支えてくれる多くのことばがあります。

冒頭のキュープラ・ロス(※1)は、「末期医療」、「死生学」のパイオニアです。精神科医として、死にゆく患者さん達に寄り添いながらインタビューを行い、死の場面に多く立ち会った経験からのことばです。

さて、「ネガティブ・ケイパビリティ」という非認知能力があります。これは、詩人のキーツのことばで、ウィキペディアによると「不確実なものや未解決のものを受容する能力」と定義されています。

先週のケアラズ・カフェには、子育て中の親ではなく、大学生が来てくれました。彼は、ヤングケアラーとして小学校時代から、認知症になった祖父の介護をずっとしてきました。高校時代は、介護度の進んだ祖父のケアを、夜遅いときには午前1時位までしたこともあったそうです。また、夜中に起きてオムツなどの排泄のケアをして、朝6時の通学電車に乗る生活であったとのことでした。

彼は介護経験を通して、効率の良い時間の使い方と

集中力が身につく、電車では短時間で寝ることが出来、大学卒業の必要単位を3年間で取得しました。就職内定後の4年生からは、就職の予定先の職場でインターンとして働いています。「大変な業種ですよ」と尋ねますと、「今までの生活に比べれば何ともありません。とても楽しいです」と答えてくれました。彼の「ネガティブ・ケイパビリティ」の高さに、私のヤングケアラーのイメージが覆されました。

既にVUCAの時代をより良く生きはじめた彼のような今の子ども達は、戦後の混乱を生き抜いた子ども達のように、この困難を通して「ネガティブ・ケイパビリティ」の基礎を身につけているのでしょうか。私は、この暗い時代に希望の光を見たように感じます。私達も子ども達と一緒にこの贈り物としての苦難を乗り越えていきましょう。

聖書には、「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません(ローマの信徒への手紙5・4-5)」とあります。

※1「死ぬ瞬間」、「続・死の瞬間」、「生命ある限り」、「タギーへの手紙」

(しらゆり 2023. 1. 27号 加筆修正)

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

アジア学院創立50周年

今から半世紀前の1972年の春、独立戦争直後の混乱から這い上がろうとしていたバングラデシュに、日本から救援活動のために、高見敏弘先生ら後にアジア学院の創設に関わる農村伝道神学校東南アジア農村指導者養成所のスタッフと、応募で選ばれた50人の若者が入りました。高見はこの若者たちについて「はっきりとした宗教的バックグラウンドを持つものはあまりいませんでしたが、皆、とても霊的に深いものを持ってはいました。現地に入ると彼らは慣れないベンガルの文化と地政にすばやく適応し、派遣された村々で回教徒、ヒンズー教徒、キリスト教徒、仏教徒、はたまたアニミストの村民たちと見事なまでに共に汗を流したのです」と言い表し、彼らの姿にアジア学院の幻(ビジョン)を見たと言っています。「これら青年ボランティアたちの、きついけれども楽しい作業に献身的に打ち込む姿、そして村人たちが見せる熱狂的な対応に深く心動かされた私は、アジアの農村を念頭に置いた農村リーダー

訓練・育成計画の創設とその実践という幻を描くこととなりました」。

慣れない環境の中、辛くても嬉々として働くエネルギーギッシュな青年たちと、彼らを熱い気持ちで受け入れるバングラデシュの人々と共に生きる新しい世界、それを高見先生が体験しなければアジア学院が生まれることはなかったでしょう。

このアジア学院の原風景に見えるのは、多種多様な人々が呼び集められて、互いに支え合い、互いに愛し合うようになるという世界です。ここから始まって幻は現実となり、アジア学院はその原風景に近い世界を、できるだけ忠実に再現しようと努力してきたのではないかと思います。毎年世界中から多種多様な人間たちが呼び集められ、神が創造された自然と協働して、共に働き、共においしい食事をいただき、共に学び、共に祝い、共に楽しむ、つまり共に生きるコミュニティを形成することは、この上ない神様からの「贈り物」です。

今、これからの50年を考えた時、私たちはこの贈り物をもっと多くの人々と共有したいと思い、ここから始まる未来に向けて「共に学ぼう、農村の未来のために」というテーマを与えられました。このテーマには、神様からの贈り物として与えられたこの素晴らしい学びのコミュニティを、これからの未来においても、もっと多くの方々と共に学べることのできる開かれた場として創造していきたいという強い決意が込められています。

そして私たちはこの理想の「共に学ぶコミュニティ」の創造を、「土からの平和」、「フードライフ」、「気候正義と気候変動対策」、「教育」、「組織」という5つの分野から総合的に、多角的に取り組むこととしました。この取り組み方を「ホール・キャンパス・アプローチ」と呼び、皆さんにより分かりやすく、より参加していただきやすい方法で示し、様々なプログラム、プロジェクトを展開していきたいと思っています。

共に学ぼう、農村の未来のために

YMCAだより

【2月3日(金) ピンクシャッターリーダートレーニング】

社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、「傍観者にならないこと」がいじめられている人を救うことになる私たちは考えます。今年も各拠点でピンクに染まりました。また、今年はユースで2月3日に対面とZoomを用いてリーダーたちが集まり「誰かにとってのフツー」と「自分にと



「誰かにとってのフツ」について考える機会となりました。トレーニングの中で高校生や大学生、社会人な幅広い年齢層が集い感じたことについて語り合いました。

【2022年度スプリングプログラムが始まります！！】

「仲間と喜び・感動する春！」を合言葉に2022年度とちぎYMCAスプリングプログラム申込が2月17日（金）13時から始まりました！

今年も申込開始と同時にたくさんの申込がありました。最初のプログラムは3月25日（土）にとちぎYMCAサッカー大会があります。サッカー大会を皮切りに約2週間で7プログラムが行われます。それぞれのプログラムにおいて子どもたちとリーダーが出会い、今後の人生の礎となるような感動を子どもたちに届けていきます。



仲間と喜び・感動する春！

【とちぎYMCA・那須YMCA 3月の予定】

- ・ 3/4（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（風揚げ）
- ・ 3/5（日） とちぎYMCA大会@宇都宮市青少年活動センター
- ・ 3/11（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（風揚げ）
- ・ 3/12（日） Y キッズ@アクアワールド茨城県大洗水族館
- ・ 3/15（水） さくらんぼ幼稚園卒園式

「フツ」について思いを出し合い一人ひとりが自分の思いとして「誰か

- ・ 3/16（木） 西那須野幼稚園卒園式
- ・ 3/25（土）～ スプリングプログラム開始

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名）
2. 学校名
3. 出身地
4. YMCAに入ったきっかけは？
5. 思い出に残った活動とその理由は？
6. 今後の進路は？
7. YMCAに一言

今月は休みます

編集後記

- ・ 原稿は、予定通り集まったのに、発行者の怠慢から遅れました。申し訳ありません。
- ・ スギ花粉の量は、中途半端じゃありません。目がかゆく、顔もかゆい、くしゃみは出るしで苦しんでいます。

那須ワイズメンズクラブ 主催

講演会

「もしもの時」に備え話し合いましょう～
みんなで語り合いましょう。

2023年3月18日（土）
午後3時～午後4時30分

講師：河野桐子ワイズメンズクラブ会長・(社) 栃木県訪問看護ステーション協議会 会長

人生の終わりにまでおなほは、どのように過ごしたいですか？

もしものときのために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることが、できなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこまでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

話し合いの進めかた（例）

- あなたが大切にしていることは何ですか？
- あなたが依頼できる人は誰ですか？
- 依頼できる人や家族・ケアチームと話し合いましたか？
- 話し合いの結果を大切な人たちに伝えて共有しましたか？

心身の状態に応じて希望は変化する可能性があります。定期的に話し合えるようにしましょう。

「入場料」無料

会場/日本基督教団西那須野教会（那須塩原市太夫塚 1-232-438）
【主催】 那須ワイズメンズクラブ・那須YMCA
お問い合わせ 那須ワイズメンズクラブ 副会長 田村修也 090-5545-6763